



き全日本
や国能
らば楽
ん

喜多流 新春盛岡公演



狂言 末広かり 高野 和憲
能 竹生島 佐々木 多門
女体

日本全国 能楽キャラバン! in 岩手

令和6年 1月6日(土) 12:30 開場 13:30 開演

盛岡市民文化ホール・大ホール

■ 料金 全席指定 (税込)

SS席 ¥5,000 / S席 ¥4,000 / A席 ¥3,000 / B席 ¥1,000

■ 前売開始 令和5年9月20日(水)

■ お問い合わせ

公演に関するお問合せ: 公益財団法人十四世六平太記念財団 Tel. 03-3491-8813 (10:00~18:00 休館日あり)

チケットに関するお問合せ: 岩手日報社事業部 Tel. 019-653-4121 (平日9:00~17:00)

主催: 公益社団法人能楽協会、公益財団法人十四世六平太記念財団

共催: 公益財団法人盛岡市文化振興事業団、岩手日報社 後援: 盛岡市、盛岡市教育委員会

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金 (統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業(アートキャラバン2))
独立行政法人日本芸術文化振興会



チケット購入のご案内

窓口のみ

- カワトク ● アネックスカワトク ● フェザン
- 盛岡市民文化ホール

【お受取り・お支払い】 お支払いは現金、またはクレジットカードをご利用いただけます。
(※盛岡市民文化ホールは現金のみとなります。)

窓口・電話予約

- 岩手日報社事業部 TEL. 019-653-4121 平日9:00~17:00

【お受取り・お支払い】 お支払いは現金のみとなります。

ローソンチケット

<https://l-tike.com/> (Lコード: 21010)



【お受取り・お支払い】

ローソン・ミニストップ(店内Loppi)でも直接購入いただけます。

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。

お支払いは現金、またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードでお支払いを済ませていただくことも可能です。

- ※ お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。ご予約の際ご案内いたします。
- ※ ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・ホールエリアはすべて禁煙です。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。



当公演は字幕解説「能サボ」をご利用いただけます

- ・お手持ちのスマートフォン、タブレットに舞台上演に合わせた字幕解説が自動的に表示されます。(日本語・能のみ)
- ・事前にQRコードから「G・マーク」アプリ(無料)をダウンロードしてください。
- ・当日ロビーでのご案内もいたします。

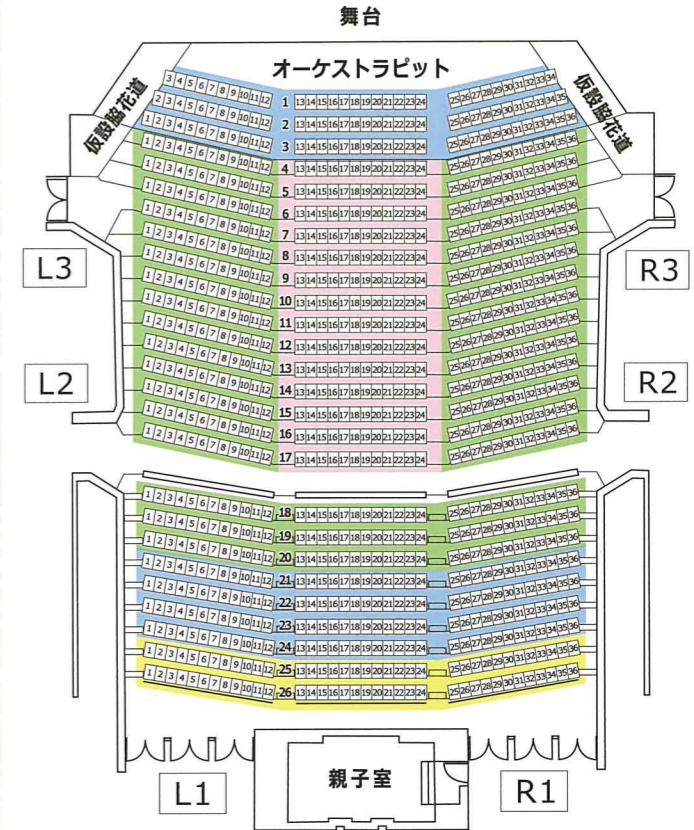
<http://www.g-marcapp.com/>

- ※ 公演中は必ず機内モードにしてご利用ください。
- ※ 周りのお客様へご迷惑にならないようご配慮ください。



観客席御案内

- SS席 ¥5,000 S席 ¥4,000
- A席 ¥3,000 B席 ¥1,000



会場案内図

盛岡市民文化ホール・大ホール

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通2-9-1

TEL: 019-621-5100



- ・盛岡駅より東西自由通路(さんさこみち)経由 徒歩3分
- ・バス: 盛岡駅前下車、東西自由通路(さんさこみち)経由徒歩3分/盛岡駅西口下車徒歩1分
- ・東北自動車道・盛岡インターチェンジより車で約10分
- ・駐車場はマリオス周辺の有料駐車場をご利用ください。
- ・駐車場についてはマリオスロード高架下にある盛岡駅西口自転車等駐車場(有料)をご利用下さい。



日本
能楽
キャラバン
全国

日本全国 能楽キャラバン！ in 岩手

喜多流 新春盛岡公演

令和
六年

一月六日(土) 十三時半始

盛岡市民文化ホール・大ホール

素謡

翁

長島 茂
千歳 谷 友矩

地謡
塩津 圭介
内田 成信
栗谷 明生
栗谷 充雄

仕舞

老松

佐々木宗生

地謡
塩津 圭介
内田 成信
友枝 雄人
金子 敬一郎

和泉流

狂言

末広かり

シテ・果報者 高野 和憲

アド・太郎冠者 野村 太一郎
アド・すっぱ 石田 幸雄

後見 野村 遼太

休憩(二十分)

能

後シテツレ・龍神 友枝 真也

前シテツレ・女 佐藤 陽

後シテ・弁財天
前シテ・漁翁

佐々木多門

竹生島

女体

ワキ・臣下 宝生 常三

ワキツレ・従臣 館田 善博

ワキツレ・従臣 梅村 昌功

問狂言・杜人 野村 遼太

大鼓 國川 純 太鼓 林雄一郎
小鼓 森澤 勇司 笛 松田 弘之

後見 塩津 哲生 狩野 了一
栗谷 浩之

地謡
佐藤 寛泰 友枝 雄人
内田 成信 中村 邦生
金子 敬一郎 出雲 康雅
栗谷 充雄 長島 茂

附祝言

終了予定時刻 十六時頃

—— あらすじ ——

素謡「翁」(おきな)

能楽の曲中において最もはるかに古く成立した起源曲。

天下泰平・国土安穩、五穀の豊かな稔りを祈る神の詞。戯曲的な進行はなく、謹厳なる式事が進行してゆく内容となっています。「能にして能にあらざる」といわれ、能楽の中で最も神聖視されている曲のため、上演中の場は絶対不可侵であり、お客様の途中からの入場はお断りしなければなりません。番組には必ず冒頭へ置くように扱われ、年頭の節目などの祝賀の折に演じられます。神事に奉仕する心で勤める出演者と、神事に参加する心の観客とが一体となって、神聖な空間を共にするひとときです。

今回は謡のみで演じられる素謡で、新年を寿ぎ祝います。

仕舞「老松」(おいまつ)

菅原道真ゆかりの松と梅。老松の精霊が現れて、春に先がけて咲く梅と、松の長寿のめでたさを讃えつつ清らかに舞います。

仕舞とは、能面と能装束を着けずに紋付袴にて曲の一場面を舞う形式です。

狂言「末広かり」(すえひろがり)

果報者が来客に末広かり(扇)を贈ろうと、太郎冠者を都へ買いに行かせます。ところが末広かりが何のことも知らない太郎冠者。声を掛けてきた男の巧みな言葉に、古傘を末広かりと信じ込んでしまふのでした。大喜びの太郎冠者は早速屋敷に帰ると、古傘を果報者に見せますが…。縁起物の末広かりを題材とした、和やかな祝いに満ちた舞台。

能「竹生島 女体」(ちくぶしまによたい)

琵琶湖の竹生島参詣へとやってきた官人一行(ワキ・ワキツレ)が、島に渡るため、老人と若い女(前シテ・前ツレ)が乗る釣舟に便乗させていただきます。近江国(今の滋賀県)の、のどかな春の眺望を賞でながら島に着き、弁財天へ参拝をすると、先ほど舟にいた若い女もついて来ます。竹生島は聖地であり、立ち入りが制限されている女人禁制ではないかと尋ねると、老人は「弁財天は女体であられるので、女人こそお参りをして救済されるべきなのである」と答えます。やがて女は神殿に姿を消し、老人は湖の主と名乗って波の中へと見えなくなってしまう。(中人)

官人が竹生島に伝わる宝物を、社人(問狂言)から拝見して感じいつていると、やがて御殿が鳴動するや、日月のように光り輝く弁財天(後シテ)が現れます。湖からは波風をおこして龍神(後ツレ)が出現し、官人に宝の珠を捧げるのでした。衆生の願いをかなえ、国土を守る誓いを示す神々の舞が繰り広げられます。本年の干支、辰年に合わせた祝言に満ちた内容です。

喜多流の「女体」の演式は、能にも深い造詣があった幕末の大家・井伊直弼が自ら作りました。通常の竹生島は龍神がシテ、弁財天がツレで天女ノ舞を舞いますが、「女体」となると弁財天が後場のシテ(主役)となって、莊重な「楽(がく)」という舞をみせます。ツレ(第二の役)の龍神は力強い所作で舞台を縦横に躍動し、弁財天との静と動の配合の妙となり、大曲の構成となります。